

TOP page

資料室

イベント情報

講師を探す

Worker's 広場

関連リンク

資料室



HOME | 資料室 | 一般教養 | 自己啓発 | ドラッカーの思想①

労働組合

労働者福祉・共済

一般教養

社会保障

労使トラブル法律相談Q&A

労働関係法

経営全般

人間関係とコミュニケーション

ライフプラン

男女共同参画

公務員関係法

日朝の歴史

7つの習慣

中東の歴史

ボランティア活動

環境活動

社会貢献活動

自己啓発

生涯学習

外交・防衛問題

資本論

教育カリキュラム

日本国憲法

ドラッカーの思想①

「マネジメントの父」と呼ばれるピーター・F・ドラッカーは、1909年オーストリア=ハンガリー帝国の首都ウィーンで生まれた。

彼が4歳のとき、第一次世界大戦が勃発し、この戦いでオーストリア=ハンガリー帝国は解体される。

大戦によって廃墟となり、ヨーロッパ全体では1000万人以上の人々が殺された。

何百年もかけて築き上げてきた文明も壊れてしまい、幼いドラッカーの胸にも深い記憶となって植えつけられ、文明に大きな興味を持つことになり、加えて、社会や政治にも関心を抱くようになる。

彼が青年期を過ごした時代のヨーロッパは、まさに混沌のなかにあった。

早く実社会に出たいという思いからハンブルク大学に籍を置きながら、ドラッカーはドイツの商社に就職する。

その後、経済と金融の中心地フランクフルトへと移り住み、名門フランクフルト大学に籍を置き、証券会社に勤める傍らで景気上昇を予測する論文を書き上げて経済紙に掲載されたりもした。

しかし、その直後に世界大恐慌が起こり、勤めていた証券会社は倒産。

失業したドラッカーが次についた職が新聞社の経済記者。

フランクフルト大学を21歳で卒業したあとは大学の非常勤講師の職にも就き、経済記者と大学講師の二足のワラジ生活を続けていた。

ちょうどその頃のドイツでは、国家社会主義を提唱するヒトラーが力を持ち始めていた。

ヒトラーの全体主義に嫌気を差したドラッカーは、イギリスのロンドンに渡り、マーチャントバンクに就職。

ケンブリッジ大学でケインズの授業を聴講し、自分のやっていることに疑問を持ち始めた。

そして、自らの関心が人と社会にあることを改めて自覚し、いきなりアナリストの仕事を手放してアメリカへ移住する。

アメリカへ渡ってからは、大学の非常勤講師とライターをやりながら、自分が今までヨーロッパで見たことをまとめる作業に取り掛かるのである。

(つづく)

資料に関する解説やサイト内ブックマーク、簡単なクイズもできる無料会員登録のお申し込みはこちらになります。

Worker's Library 会員登録

お申し込みはこちらです。

>>> 一覧へ戻る

傾聴

語り部スキル

🔍 キーワード検索はこちら

🗺️ サイトマップ 📄 このサイトについて 🛡️ 個人情報保護の取組みについて

🏠 ページTOPへ

TOP page

資料室

イベント情報

講師を探す

Worker's広場

関連リンク

Worker's Library 静岡で働く人のための資料閲覧サイト
JAPANESE TRADE UNION COFEDERATION DB SITE **【ワーカーズ・ライブラリー】**

Copyright© WORKER'S LIBRARY All rights reserved.